

「命を繋ぐ花」

社会福祉法人 寿幸会 旭ヶ丘特別養護老人ホーム

工藤 竜也様

Aさんはいつも折り紙でチューリップを作っては他の利用者様へお渡ししたり、職員にも渡すのが日課となっています。渡す時に、「このゴミをもらってくれねえか？」と、少し照れたような表情になります。定期的にチューリップをいただいている私は、「そんなに無理しないで大丈夫ですよ」と伝えました。Aさんは何事もないような表情で、「ボケの防止になるからよお、Bさんに教わったことをただやりたいんだよ」とのことでした。Bさんはひたすらにチューリップを折っては、みんなにお渡しして笑顔の花を咲かせる、「花咲かおばあちゃん」でした。そんなBさんの横にはいつもAさんがいました。いつの間にかAさんも、Bさんと一緒にチューリップを作っていました。

Bさんがお亡くなりになってからも、Aさんの行動は相変わらず、今でもずっと折り紙を折っています。

わたしの娘が幼稚園に通っていた時、Aさんに、「娘の幼稚園のお友達に、Aさんの作ったチューリップをお渡ししてもいいですか？」と尋ねると、嬉しそうに大量のチューリップをいただきました。登園時、娘にチューリップを持たせたその日の帰り、「みんながね、すごく嬉しそうにチューリップをもらってくれた」と、嬉しそうに話す娘を見て、私もすごく嬉しかったです。

BさんからAさんに引き継がれた命を繋ぐ花。Aさんが作ってくださる花のおかげで私の周りでは、たくさんの笑顔の花が咲いています。